

(令和2年度入学者用)

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）（昼間コース）

香川大学経済学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（92単位以上、内訳は、学部基礎科目（22単位以上）、学部専門科目（20単位以上）、コース専門科目（20単位以上）、自由科目（20単位以上）、プロゼミナール（2単位）、演習（4単位）、卒業論文（4単位）から構成される教育課程を編成・実施します。3年次に演習を履修するためには、所定の科目を26単位以上修得していることが条件となります。卒業要件単位数は124単位以上とします。

ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

①言語運用能力

全学共通科目のコミュニケーション科目により基礎となる語学力向上を図ります。また、学部開設科目の「外国語演習Ⅰ・Ⅱ」、「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」などの授業や海外研修プログラムを通して、より専門的な外国語運用能力や国際感覚を獲得します。日本語運用能力は、「プロゼミナール」や「演習」、「個別演習」の中で段階的に身につけます。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（経済学）として）

基礎となる幅広い視野と知識獲得のため、全学共通科目（学問基礎科目、主題B「現代社会の諸課題」等）を学び、経済学及び経営学的な視野・視点を涵養するため、1、2年次に学部基礎科目を学びます。また、各コースの導入的位置づけにある学部専門科目を履修した上で、より専門的・応用的な知識・能力を習得するため、コース専門科目及び「演習」を履修します。複眼的な思考を養えるよう、学部専門科目では5領域の科目の履修も義務付けています。講義形式による知識の獲得と演習形式による具体的課題に対する探求力の修得を組み合わせることで、より総合的な知識の獲得と実践的な知識の理解を達成します。

③問題解決・課題探求能力

全学共通科目の主題B「現代社会の諸課題」や大学入門ゼミにおいて問題発見・解決の方法を学び、学部専門教育を受けて専門知識とデータ分析能力を修得します。2年次後期は「プロゼミナール」、3年次は「演習」、4年次は「個別演習」を履修し、研究室単位でのアクティブラーニング型の少人数教育のもと、応用的な専門知識を身につけつつ、研究に取り組みます。自ら抽出した課題に対する分析・考察を行い、「卒業論文」を執筆することで、問題解決・課題探求能力を身につけます。

④倫理観・社会的責任

全学共通科目の主題 A「人生とキャリア」において 21 世紀型市民としていかに生きるかを学び、2 年次後期の「現代経済社会事情」や 3 年次の「インターンシップ」、専門科目を受講することで、社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動を身につけます。一連の科目は、高い倫理性、社会的責任の自覚、社会における問題解決・課題探求能力を発揮する基礎となります。

⑤地域理解

全学共通科目の主題 C「地域理解」で地域理解への動機づけがなされ、学部開設科目の学部専門科目（観光・地域振興領域及びグローバル社会経済領域）を履修した上で、海外研修プログラムや地域的な課題をテーマとする講義に参加することで、国際的な視野を身につけるとともに、地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見します。これら地域理解科目では、講義の目的に応じて講義、グループワーク、フィールドワーク、PBL（Project Based Learning）など様々な教授方法が取り入れられ、より実践的に地域の課題を理解します。

以上の学修成果の評価は、基本的に講義科目では修得した知識の理解度で、「演習」「個別演習」では専門分野に対する習熟度と研究活動に対する取り組み姿勢で、「卒業論文」は研究内容や様式などについて教員毎に示された単位認定方針に沿った総合評価で実施し、厳格な成績評価（5 段階評価、GPA の活用）で行います。令和 4 年 10 月 1 日以降は、シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。